

Ⅲ 委員会活動

1 学内委員会

1) 委員会および委員一覧

| 委員会 | 委員 (◎: 委員長、○副委員長) |
|-----------|--|
| カリキュラム委員会 | ◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子・中田 芳子 (教授)、秋元 とし子・瀧澤 直子・望月 好子 (准教授)、二見 眞一郎 (講師) |
| 教務委員会 | ◎丹澤 洋子・瀧澤 直子・林 真理子 (准教授)、飯室 淳子・橘田 節子・新村 直子 (講師)、寺村 絵美 (4月-11月)・北室 和茂 (12月-3月) (事務室員) |
| 学生委員会 | ◎中田 芳子 (教授)、小川 景子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、後藤 雪絵 (助教)、北室 和茂 (事務室員) |
| 現代文明論委員会 | ◎新村 直子 (講師)、今瀬 繁子 (教授)、小川 景子 (准教授)、飯室 淳子・二見 眞一郎 (講師)、岩屋 裕美・渡邊 真弓 (助教) |
| 国家試験対策委員会 | ◎吉野 由美子・望月 好子 (准教授)、阿部 ケエ子・蔵本 文乃 (講師)、2年生代表: 瀧澤 直子 (准教授) |
| 国際交流委員会 | ◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、望月 好子・丹澤 洋子 (准教授)、北室 和茂 (事務室員) |
| 人権委員会 | 人権委員: 非公開 相談委員: ◎望月 好子 (准教授)、飯室 淳子 (講師)、西山 京子 (事務室係長) |
| FD委員会 | ◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、瀧澤 直子 (准教授)、新村 直子 (講師) |
| 倫理委員会 | ◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、飛田 美穂 (外部委員)、中谷 啓子 (総合看護研究施設所長・教授)、瀧澤 直子 (図書館長・准教授)、望月 好子 (人権委員会相談委員リーダー・准教授) |
| 年報編集委員会 | ◎吉田 礼子 (学科主任・教授)、中谷 啓子 (教授)、丹澤 洋子 (准教授)、寺村 絵美 (事務室員) |

2) 各委員会活動

(1) カリキュラム委員会

A 位置づけ・役割

本学における教育理念を具現化し、時代にあったより良い教育を実践するためカリキュラムに関することについて審議することを目的とし、以下の活動を行う。

- ① カリキュラムの作成に関する事項
- ② カリキュラムの総合的な評価・修正に関する事項

B 活動概要

2011年度が改正カリキュラムの完成年度となることからカリキュラム評価について検討・実施した。2007年度にそれまでのカリキュラムについて評価をおこなっており、前カリキュラムと比

較するため、その時用いた質問紙を活かしたアンケート調査を卒業期にある在學生を対象として行った。

カリキュラム委員会主導で作成した「看護技術到達度記録」も、技術修得状況を把握することはカリキュラム評価に重要であることから集計・分析した。

教員に対する調査は、前回の質問紙に課題が多かったため、今回は見合わせ、次年度はじめに何らかの方法で意見を把握することとした。

調査結果は報告書として小冊子にまとめることにした。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|----|-----------|--|
| 1 | 5月17日(水) | ① 2011年度に完成年度となるカリキュラム評価の方向性 |
| 2 | 6月15日(水) | ① 短期大学基準協会がカリキュラム評価に求めているもの ② 新カリキュラムの評価目的・評価方法 |
| 3 | 9月14日(水) | ① カリキュラム評価日程 ② 調査方法 |
| 4 | 10月12日(水) | ① カリキュラム評価の調査方法 |
| 5 | 11月16日(水) | ① 在學生カリキュラム評価アンケートについて ② 調査実施日程について |
| 6 | 12月21日(水) | ① カリキュラム評価アンケート内容の最終確認 ② 調査実施日時の決定と作業分担について ③ 教員への調査について ④ 看護技術到達度記録の集計について |
| 7 | 1月25日(水) | ① 看護技術到達度記録について ② カリキュラム評価アンケートデータ処理と分析について ③ カリキュラム評価アンケート教員対象分の実施について |
| 8 | 2月22日(水) | ① 在學生カリキュラム評価アンケート集計結果の検討 ② 在學生カリキュラム評価アンケート自由記述のまとめ ③ 看護技術到達度記録集計結果の検討 |
| 9 | 3月14日(水) | ① 教員アンケート実施の可否について ② 在學生カリキュラム評価アンケート結果検討 |
| 10 | 3月27日(火) | ① カリキュラム評価報告検討 ② カリキュラム委員会の活動評価 |

(2) 教務委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、2003年度改定された教務委員会規程に則って活動する。委員会決定事項は、教務委員長から学科主任へ報告し、必要時企画調整会議に図り、教授会で審議・報告される。

B 活動概要

委員会活動は、前年度の引継ぎ事項を確認し、教務委員会年間活動計画に基づき活動した。「看

「看護技術教育検討小委員会」、「安全教育検討小委員会」の2つの小委員会を設け、本学における看護技術教育および安全教育の充実に取り組んだ。

今年度は、2012年3月に全教員を対象に報告検討会を開催し、年間ヒヤリ・ハットの集計結果とその傾向、「看護技術到達度記録 自己評価の手引き」の一部修正後の結果、各教員から出された講義・演習・実習に関する意見・問題点とそれらに対する委員会の検討結果の報告を行った。年間ヒヤリ・ハット報告をもとに、看護行為の安全教育について教員間で活発な意見交換が行われ、安全教育の積み重ねの重要性が示唆された。

今年度の活動の概要を以下に示す。

① 看護技術教育検討小委員会の活動内容

a. 「看護技術到達度記録」の活用

- ・学生が効果的に活用し自己評価できるように、ガイダンスで説明し、評価への動機づけを行った。
- ・3年生に対しては、全実習が終了した後「看護技術到達度記録」を回収し卒業時の自己評価の記載状況を確認した。回収率は約87%、そのうち自己評価が全て記載されている学生の割合は約43%であった。卒業時の自己評価をしていない学生に対しては、必ず自己評価するよう指導した。
- ・自己評価の手引きを見直し、「看護技術到達度記録」に使用されている言葉と同じ表現に修正した。また、評価の視点についても、表現内容を見直し修正が必要な項目について、委員会の検討と、関連科目責任者に確認等を受け最終決定し、修正を行った。

b. 「臨地実習における看護技術水準の手引き」の活用

- ・学生が臨地実習に於いて、患者の安全と自身の安全のもと看護技術の提供が行えるよう、ガイダンスで活用について説明した。臨床側には、実習打合せで説明した。

② 安全教育検討小委員会活動内容と評価

年2回「ヒヤリ・ハット報告」の集計・分析を行った。ヒヤリ・ハット内容とその原因から、学生の傾向や学習環境での問題が見出され、委員会での検討と3月に行った報告検討会で、現状を共有し、今後の安全対策について検討した。

③ 身体侵襲を伴う看護技術演習「同意確認書」について

身体侵襲を伴う看護技術演習の同意確認を文書で行い、本人・保護者へは、新入生オリエンテーション時、学科主任から「同意確認書」に関する説明を行った。同意確認書は、教務委員長が提出を確認し、所定の場所に保管した。

④ 看護学実習ガイダンス、領域別オリエンテーション、実習病院（東海大学医学部附属病院、東海大学医学部附属大磯病院）との打ち合わせ会の企画・実施

- a. 看護学実習ガイダンスについての企画運営
- b. 3年生領域別看護学実習オリエンテーションの日程調整
- c. 実習病院との打ち合わせ会の開催

※附属病院以外の実習施設との打ち合わせは、各看護学実習担当者が行った。

⑤ 次年度以降の実習計画の立案

2012年度の実習計画は、2011年7月に開催した東海大学医学部附属病院実習協議会で承認された。2013年度の実習計画(案)を作成し、2012年2月に開催した前記協議会に提出した。

⑥ 講義・演習・実習に関する意見の収集と対策について

前期・後期授業終了後、各教員から講義・演習・実習に関する意見を収集し、委員会において検討した。問題点や意見と委員会での検討結果を一覧にし、全教員に配付することで現状を共有した。委員会において検討した内容を、学科主任・関係部署に報告・依頼することで、現状の中でできる最大限の学習環境整備や問題状況の改善につなげた。

⑦ 実習評価について

看護学実習担当責任者を通じて、2011 年度実施された全看護学実習評価を一覧表にまとめた。今年度の評価反省を生かして、学生にとってより良い実習ができるよう、関係諸施設、臨床実習指導者などとの連携を強め、努力していく。

⑧ 実習要綱総説の見直しと修正について

「実習に関する注意事項」(2) 食堂利用時のビブエプロン脱衣の項目削除と、一部誤字等について修正を行った。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|---|-----------|---|
| 1 | 4月13日(水) | ① 活動目標・計画、役割分担の確認 ② 実習打ち合わせ会における役割の確認 |
| 2 | 5月25日(水) | ① 小委員会の活動目標・年間計画 ② 実習打ち合わせ会実施報告 |
| 3 | 7月13日(水) | ① 2012年度実習計画(案)の確認 ② 前期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ③ 11KF 看護学実習に関するガイダンスの役割等の最終確認 ④ 委員会予算申請に関して ⑤ 小委員会からの報告 a. 「看護技術到達度記録」の自己評価 b. 前期における「ヒヤリ・ハット報告」集計 ⑥ 実習に関する意見の検討 a. 実習中の学生の実習着エプロンについて b. 手術衣について |
| 4 | 9月8日(水) | ① 東海大学医学部付属病院実習協議会の報告 ② 前期における講義・演習・実習に対する意見と検討 ③ 小委員会からの報告および検討 a. 前期における「ヒヤリ・ハット報告」集計と分析今後の対策 ④ 11KF 看護学実習に関するガイダンス実施の評価 |
| 5 | 10月12日(水) | ① 2013年度実習計画(案)検討 ② 2012年度実習要綱総説の見直し ③ 前期における講義・演習・実習に対する意見への対策の経過 |
| 6 | 11月17日(水) | ① 2012年度実習要綱総説の見直し ② 小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録 自己評価の手引き」の内容表記の検討 ③ PCでの地デジ録画DVD再生についての調査結果報告 |
| 7 | 12月14日(水) | ① 2012年度看護学実習オリエンテーション日程 ② 2011年度実習評価 ③ 後期、講義・演習・実習に対する意見の収集 ④ 小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録 自己評価の手引き」の修正案検討 b. 後期における「ヒヤリ・ハット報告」集計に向けて |
| 8 | 1月18日(水) | ① 2012年度10KF実習グループ編成(案) |

| | | |
|----|----------|---|
| | | ② 2012 年度 10KF・11KF 看護学実習に関するガイダンス(案) ③ 2012 年度 10KF 領域別(看護学別)実習オリエンテーション ④ 小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録」の回収状況 b. 後期における「ヒヤリ・ハット報告」集計の予定 |
| 9 | 2月15日(水) | ① 2012 年度 10KF 実習グループ編成(案) ② 2012 年度 10KF 領域別(看護学別)実習オリエンテーション ③ 2012 年度 10KF 看護学実習に関するガイダンスと実習打合会の資料準備 ④ 2011 年度実習評価 ⑤ 後期における講義・演習・実習に対する意見と検討 ⑥ 小委員会からの報告および検討 a. 「看護技術到達度記録」の回収と記載状況 b. 「看護技術到達度記録 自己評価の手引き」の修正結果 c. 実習記録回収と廃棄 d. 2011 年度「ヒヤリ・ハット報告」の集計結果報告と今後の対策 ⑦ 教務委員会報告会の報告内容と役割 |
| 10 | 3月21日(水) | ① ヒヤリ・ハット報告用紙の原因因子の選択方法について ② 小委員会年間活動評価 ③ 教務委員会年間活動評価 ④ 2012 年度実習打ち合わせ会 ⑤ 2012 年度 10KF・11KF 看護学実習に関するガイダンスの最終確認 |

(3) 学生委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学生会活動を側面から支援し、学生一人ひとりが社会人として学生生活を有意義に送るために組織されている、本委員会はいくまでも学生と共に考え、学生会・学友会と一人一人の学生の主体性を尊重するという方針で臨んだ。

B 活動概要

学生会活動(学生総会、選挙管理委員会、飛鷗祭、学生交流会、学友会、東海大学短期大学(部)スポーツ大会など)を中心に学生の活動を見守り、支援した。

飛鷗祭は、昨年度と同様にスポーツ大会を実施し、飛鷗祭委員長を中心に盛況のうちに実施することができた。また、今年度は大根工芸の方々には、手づくりクッキーなどの模擬店を担当していただき、地域との交流を深めた。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 報告・議題 |
|---|----------|---|
| 1 | 4月19日(火) | 【報告】 謝恩会、学生交流会について 【議題】 ① 2011 年度学生委員会活動について |

| | | |
|---|-----------|--|
| | | ② 役割分担について ③ 年間計画について |
| 2 | 6月29日(水) | 【報告】 学生総会、三者懇談会及び懇親会について 【議題】 ① 飛鷗祭の進行状況 ② 短期大学部スポーツ大会 |
| 3 | 9月8日(木) | 【議題】 ① 短期大学部スポーツ大会の実施状況と来年度の課題 ② 飛鷗祭の進行状況と今後の指導 |
| 4 | 10月13日(水) | 【議題】 ① 飛鷗祭の進行状況 ② 飛鷗祭開催中の教員の役割分担 ③ 模擬店開催に関する指導 |
| 5 | 11月16日(水) | 【議題】 ① 飛鷗祭の振り返り ② 選挙管理委員会の設置と今後の指導 |
| 6 | 3月15日(木) | 【報告】 新年度役員の決定 国家試験激励 謝恩会の進行状況 【議題】 ① 学生交流会について ② 年間の振り返り |

(4) 現代文明論運営委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は、現代文明論委員会の規程にもとづき、現代文明論の講義編成、運営を行う。

B 活動概要

今年度の授業運営は昨年の方法を踏襲している。昨年の主な変更は2点であった。1つ目は、平常点数と課題レポート点数の比率を変更したことである。14回分の授業の平常点を85%へ増やし、課題レポート点を15%に減らした。2つ目は、課題レポートの文字数を「1200-1600字以内」へ増やしたことである。配点を変更した結果、日常の講義に積極的に参加している学生が高い評価を得られていた。課題レポートの文字数に関しては全員の学生がクリアできていた。

課題レポートの記載状況では、「序論・本論・結論を意識した文章構成」・「引用・参考文献・インターネットからの情報の使い方や提示方法」が弱かった。前期にもこの傾向が強かったため、後期のガイダンス時に説明を行った。その結果、正確な文献表示はできない学生が多いものの、多くの学生が文献を用いる意識は持てるようになった。現代文明論では、物事を多方面から捉えたいうで、自分の意見を創ることを求められている。そのため、前期科目「情報検索」「ことばと表現」の担当教員と連携をとることと、後期のガイダンスではレポートのテーマの絞り方・序論および文献の記載方法、自分の意見を創ることについて、その重要性を強調し、学生へ伝え指導する必要がある。

「まとめ」のグループワークに関しては、主に2つの学習効果が得られた。1つはグループワークでのディスカッションを通して、意見交換のすばらしさを実感していた。今までは、友人の意見に対して、違う意見を述べることは避けていた学生が多いようであった。しかし、このディスカッションを通して、新たな考えが生まれる、また質問をしてもらうことで視野が広がる、など学生は有意義な経験であることが実感できていた。2つ目は、レポートの表現、文章構成、表やグラフの使い方などレポートの表現・作成形式、また発表方法に関する学びであった。その他、「根拠を述べる」「具体例を出すことの大切さ」など、一人ではできない学びをグループワークにより達成していた。

その他、毎回の授業運営は委員会員2名で行ったが、毎回、授業中のマナーが悪い学生が何名かいた。私語をする者、机にうつぶせになり居眠りをする者などがいたため、呼び出して注意を

促した。この講義は1年次の大学の授業環境に慣れない状況で行われる授業であるため、学生に対して授業に参加する姿勢を身につける指導など、適切な授業環境を整えられるよう指導していく必要がある。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 報告・議題 |
|---|-----------|--|
| 1 | 4月1日(金) | ① 現代文明論運営委員会の役割と規定の確認 ② 運営方針、運営方法の確認 ③ 年間スケジュールの確認 |
| 2 | 6月29日(水) | ① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告 ③ 第14回まとめレポート、採点基準の確認 |
| 3 | 8月3日(金) | ① 授業の現状報告 ② 第14回まとめレポート、採点後の話し合い ③ 2012年度授業構成について ④ 現代文明論Ⅰの成績確認 |
| 4 | 9月7日(水) | ① 現代文明論Ⅰの授業評価 ② 現代文明論Ⅱの授業運営 |
| 5 | 11月30日(水) | ① 授業の現状報告 ② 現代文明論連絡調整会の報告 ③ 現代文明論Ⅰ・Ⅱのシラバスについて ④ 第14回まとめレポート、採点基準の確認 |
| 6 | 2月1日(水) | ① 現代文明論Ⅱの成績確認 ② 第14回「まとめ」・採点後の話し合い ③ 講師への依頼手続きに関する書類の見直し |
| 7 | 2月29日(水) | ① 現代文明論Ⅱの授業評価について ② 2011年度活動のまとめ |

(5) 国家試験対策委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関であり、3年生の指導教員と2年生の指導教員代表で構成し、学生国家試験対策委員、事務室の看護師国家試験担当および図書館等と連携・協働しながら、看護師国家試験に全員が合格することを目指し、学生への支援を計画立案・実施する。

B 活動概要

第101回看護師国家試験受験対象者全員合格を目指し、学生国家試験対策委員を中心として学生の主体的な活動を促し、教育的支援を行なうこと、また、2年生に対しては、2年時より学生国家試験対策委員が中心となり主体的・計画的に国家試験対策に取り組めるよう基礎的支援を行なうことを活動方針とした。活動は、小委員会を設け、第101回向けの対策を3年生の指導教員が、第102回向けの対策を2年生の指導教員代表が計画立案・実施した。

3年生には学生国家試験対策委員を中心に学習目標を設定し計画的な取り組みができるよう助言しつつ、ガイダンスの実施・補講の計画及び実施・業者模擬試験の計画・過去問題模擬試験の

実施・指導教員による個別面接の計画及び実施・学習空間の確保等を行なった。2年生には、小テストの実施・業者模擬試験の実施（9月）・春休みの学習計画の立案及び学習課題を提示した。また、既卒者への対応は、事務室を通して補講や模擬試験の日程等の情報を提供した。

アンケートでは、多くの学生が学習の必要性を自覚し取り組み始めるのは全臨地実習終了後という結果であった。次年度も12月中旬まで臨地実習があるため、早期から計画的・主体的に臨地実習と平行して効果的な学習ができるよう支援の時期と内容をさらに精選していく必要がある。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|---|-----------|--|
| 1 | 4月5日（火） | <報告・連絡事項> ① 09KF 生の春休の取り組みについて ② 09KF 生の学習強化チームへの実習前の支援予定について ③ 09KF 生の第1回学生国家試験対策委員会の結果について ④ 09KF 生2年次の国家試験対策実施状況について <審議事項> ① 2011 年度活動目標・年間活動計画・役割分担 |
| 2 | 5月11日（水） | <報告・連絡事項> ① 09KF 生の活動状況について ② 09KF 生の学習強化チームへの支援について ③ 小委員会報告（09KF 生） ④ 小委員会報告（10KF 生） <審議事項> ① 10KF 生の2011 年度活動計画の検討 |
| 3 | 10月11日（火） | <報告・連絡事項> ① 09KF 生の活動状況について ② 小委員会報告（09KF） ③ 小委員会報告（10KF） <審議事項> ① 2011 年度後期国家試験対策委員会の活動方針と教員への依頼内容について ② 既卒者への対応について |
| 4 | 11月30日（水） | <報告・連絡事項> ① 09KF 生の活動状況について ② 10KF 生の活動状況について ③ 既卒者の状況について ④ 小委員会報告（09KF） <審議事項> ① 09KF 生の今後の活動計画 ② 10KF 生の今後の活動計画 |
| 5 | 3月12日（月） | <報告・連絡事項> ① 09KF 生の活動状況について ② 10KF 生の活動状況について ③ 既卒者の状況について |

| | | |
|--|--|----------------------------------|
| | | < 審議事項 > ① 国家試験対策委員会の活動評価・反省会 |
|--|--|----------------------------------|

(6) 国際交流委員会

A 位置づけ・役割

本学主催のデンマーク看護研修に対する支援を中心に、東海大学主催の航海研修およびハワイ語学研修、その他国際交流に関する支援を行う。

B 活動概要

本学学生のデンマーク看護研修に関し、東日本大震災の被害状況を鑑み開催を見合わせる意見もあったが、学長を中心に審議された結果、開催が決定されたことを受けて、団長より計画が提出され、日程・サンクスパーティー等につき審議するとともに、実施後の評価を行い、次年度研修団長に引き継いだ。報告書作成における英文所感作成の支援体制が課題としてあげられた。

年度当初予定されていてデンマーク看護学生研修団の来日についても、企画を審議したが、諸事情により来日が中止となった。

2013年3月来日につき、再度希望が寄せられ、受け入れる方向で準備する予定である。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|---|-----------|---|
| 1 | 6月29日(水) | ① 2011年度デンマーク看護研修進行状況 ② 海外研修公開応募状況報告 |
| 2 | 11月24日(水) | ① 2011年度デンマーク看護研修報告・評価 ② 2012年度看護研修に向けて ③ 2011年度デンマーク看護学生研修団受け入れについて ④ 第43回海外研修航海参加者報告 |
| 3 | 3月22日(木) | ① 2011年度デンマーク看護研修の成績評価および報告書作成について ② 2012年度デンマーク看護研修に向けて ③ 2012年度デンマーク看護学生研修団受け入れについて ④ 第43回海外研修航海帰港予定報告 |

(7) 人権委員会

A 位置づけ・役割

本委員会は学長の諮問機関である。学生の教学上（教育、研究及び課題活動を含む学生生活）、業務上等の関係を利用してなされるハラスメント防止と被害者の救済を行う。

B 活動概要

ハラスメントに関する苦情相談、救済と対応のため相談窓口を設置する。相談委員名については、キャンパスナビに記し、学生ガイダンスで伝えている。2011年度は4月の学生ガイダンスの際に、「ハラスメントの加害者にならないために」について、また「被害にあった場合の対応や相談窓口」について説明した。

2011年度全体と通して、学生および職員からの相談は1件もなく、調査委員会等の立ち上げの必要はなかった。

C 委員会開催状況

定例委員会は、開催しなかった。

(8) FD委員会

A 位置づけ・役割

大学設置基準・短期大学設置基準の改正により、2008年4月から大学・短期大学におけるFDが義務化された事をうけ、同年、本学における教員の資質開発を目的としFD委員会が接地された。委員会は、以下の活動を行う。

- a 教育活動支援
- b 研究活動支援
- c その他、教員の関わる活動に関する支援

B 活動概要

活動計画に沿い3回の研修会を企画・開催した。詳細は以下の通り。

a 第1回FD研修会

「授業研究会」2011年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー受賞者による授業公開

目的：学生が選んだ「いい授業」はどのように創りだされているのか公開していただくことにより、教員のそれぞれが「いい授業」をめざすヒントが得られる。

内容：「わかりやすく記憶に残る授業 ー身近な事例・体験を教材に活用してー」

講師：二見 眞一郎講師（人体の構造、臨床薬理学、臨床病態学担当）

日時：2011年8月26日（金）10：00～11：40

出席：教員17名

b 第2回FD研修会

講演会「カリキュラム評価の視点と方法 ー具体的な事例および体験を基にー

目的：カリキュラム評価を実施するに際し、具体的ヒントを得る。

内容：評価とは、教育とは、評価の目的と手順、実際

講師：中島 宏昭教授（昭和大学医学部）

日時：2011年9月6日（火）10：00～12：00

出席：教員15名

c 第3回FD研修会「研究教育活動報告会」

目的：教員各自が取り組んでいる研究活動、教育活動とその成果を共有し、今後の研究・活動に活かす。

内容：午前 発表1 瀧澤 直子「学生同士Peer counselingを取り入れて」

発表2 新村 直子「家族看護学について」

発表3 後藤 雪絵「エイジング教育としてのメッセージ」

発表4 吉田 礼子「ロールプレイを取り入れた看護過程演習」

午後 発表5 小川 景子「大正時代の助産師記録」

発表6 望月 好子「大学病院で働く新人看護師の実践能力に関する研究」

発表7 鈴木 陽子「看護教員のキャリア発達ステージと資質・能力のめやす」

全体討議

日 時：2012年3月5日（月）10：00～16：00

出 席：教員 18名

まとめと課題 研修会は年3回で妥当であった。今年度初めて開催した「研究教育活動報告会」は発表内容も興味深く教員間の交流にもなり好評であり次年度も継続する。カリキュラムに関する実質的な検討はカリキュラム委員会が主導して行うものであるのでそちらにゆだねる。また、個人への研究支援については総合看護研究施設と協賛する方向とする。次年度は、教育力支援を中心として企画する。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|----|-----------|--|
| 1 | 5月6日（金） | ① 2011年度活動方針 ② 2011年度活動計画 |
| 2 | 5月25日（水） | ① 講演会「カリキュラム評価について」の講師の選択 |
| 3 | 6月22日（水） | ① 講演会講師の選択 ② 研修会日程について ③ 第2回FD研修会（教育活動支援）2010年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー「模範授業」準備 |
| 4 | 7月6日（水） | ① FD研修会「授業研究」（2010年度ティーチング・オブ・ザ・イヤー教員による模範授業）準備 |
| 5 | 8月3日（水） | ① 第1回FD研修会 授業研究準備 ② 第2回FD研修会 講演会準備 |
| 6 | 9月13日（火） | ① 第1回、第2回FD研修会評価 ② 第3回FD研修会「研究教育活動報告会」企画検討 |
| 7 | 10月25日（火） | ① 第3回FD研修会準備 ② FD委員研修について |
| 8 | 12月22日（木） | ① 第3回FD研修会準備 |
| 9 | 1月17日（木） | ① 第3回FD研修会準備 |
| 10 | 2月21日（水） | ① 第3回FD研修会準備 |
| 11 | 3月17日（月） | ① 第3回FD研修会「研究教育活動報告会」評価 ② FD委員会年間活動評価 ③ 次年度研修会計画 |

(9) 倫理委員会

A 位置づけ・役割

人を対象とする研究活動においては、研究者はいかなる研究対象者に対しても、人として尊重され、その人権が擁護されることに責任をもち、さらに、他者および自己の知的財産権を保護することにも責任をもつ義務がある。本委員会は、これらの責任および義務を遂行するために、東海大学医療技術短期大学研究倫理指針の基本原則を示し、種々の研究活動における倫理的側面に対して、これを審査することを目的とした委員会である。

B 活動概要

本年度の倫理審査申請は学内3件、うち「付帯事項付き可2件」、「不可1件(再審査でも不可)」であった。

そのほかの活動は、以下の通りである。

- ① 委員会の目的・組織・審査事項等を明確にするため「東海大学医療技術短期大学倫理委員会規程」を作成した。
- ② 学長に承認を得て委員長が実施した「研究活動についてのアンケート」の結果に基づき、学生対象の研究時の説明方法、審議結果の表現、審査内容、審査の場の改善、委員会日程などを審議した。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|---|----------|---|
| 1 | 4月6日(水) | ① 2011年度委員会開催日について ② 倫理委員会規程作成について ③ 倫理審査の在り方 |
| 2 | 5月11日(水) | ① 倫理審査 1件(学外):可 ② 調査(データ収集)終了届(承認番号0953)の取扱いについて ③ 「東海大学医療技術短期大学倫理委員会規程」検討 ④ 第9回(12月)の会議日程について |
| 3 | 7月6日(水) | ① 倫理審査 1件(学内):審査対象外 ② 申請書類の受理について ③ 第4回(8月)、第5回(9月)の審査会 申請書類提出期限について |
| 4 | 8月3日(水) | ① 倫理審査 1件(学内):不可 ② 調査実施の伝え方 ③ 倫理申請に関する追加事項 |
| 5 | 9月7日(水) | ① 倫理審査 1件(再審査):不可 ② 倫理審査申請に関する確認事項 |
| 6 | 1月11日(水) | ① 倫理審査 1件(学内):可(付帯事項有) |
| 7 | 2月1日(水) | ① 倫理審査 1件(学内):可(付帯事項有) ② 研究活動についてのアンケート結果について |
| 8 | 3月7日(水) | ① 2011年度活動評価 ② 4月、5月定例会決定 |

(10) 教育年報編集委員会

A 位置づけ・役割

第三者評価機関による外部評価が義務付けられたことを受け、教育年報は自己点検・評価の一環として位置づけられるとともに、広く社会に本学の教育研究活動の取り組みを公表することを通し批判を乞うことを目的として発刊する。本委員会は、その趣旨に基づき、以下の役割を担う。

- 1 教育年報の趣旨に基づき、その構成、記載方法に関する基準を作成し、適宜改訂する。
- 2 提出された原稿が基準に則り適切に記述されているかを査読する。

B 活動概要

2010 年度教育研究年報につき、提出された原稿の査読を行いウェブ上に公開した。「作成の手引き」に基づき、教職員に 2011 年度教育研究年報の原稿執筆を依頼した。

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 議 題 |
|---|----------|---------------------|
| 1 | 7 月～8 月 | 第 1 回紙面会議（原稿を回覧、査読） |
| 2 | 9 月～10 月 | 第 2 回紙面会議（原稿を回覧、査読） |

2 学外委員会

1) 委員会および委員一覧

| 委員会 | 委員 |
|------------------|---|
| 東海大学短期大学（部）紀要委員会 | 紀要委員会委員：灰田 宗孝（学長）、櫻井 和好（事務室長） 審査委員会委員：中谷 啓子（教授） 編集委員会委員：中谷 啓子（教授） |
| 現代文明論連絡調整会 | 新村 直子（講師） |

2) 各委員会活動

(1) 東海大学短期大学（部）紀要委員会

A 位置づけ・役割

東海大学短期大学部、東海大学医療技術短期大学、東海大学福岡短期大学は、協同して紀要発行することとし、紀要の企画、編集及び発行のために、東海大学短期大学（部）紀要委員会、東海大学短期大学（部）紀要審査委員会、東海大学短期大学（部）紀要編集委員会を置く。

B 活動概要

紀要委員会は、紀要の企画、編集及び発行を統括する。第1回紀要委員会を開催し、2011年度紀要第45号発刊に向け、規定、委員会委員、発刊計画について審議した。本委員会の長は、各短大学長の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

紀要審査委員会は、紀要委員会からの委嘱を受け、論文審査及び論文掲載の可否に関する判定を審議した。本委員会の長は、審査委員の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

編集委員会は、紀要委員会からの委嘱を受け、紀要発行の業務を遂行した。本委員会の長は、各短大編集委員の互選とし、東海大学短期大学部委員がその任にあたった。

2012年3月15日、東海大学短期大学紀要第45号を発行した。

C 委員会開催状況

| 委員会 | 開催日 | 開催場所 | 議題 |
|--------------|----------|----------------------|---|
| 第1回 審査委員会 | 9月17日（土） | 東海大学 代々木校舎 会議室 | ① 審査の基本方針 ② 投稿原稿の状況確認及び審査について ③ 投稿原稿の査読者の選定 ④ 査読報告書・修正意見回答書 様式 ⑤ 今後のスケジュール |
| 第2回 審査委員会 | 11月5日（土） | 短期大学部 会議室 | ① 第1回委員会議事録の確認 ② 査読結果及び掲載の可否確認について ③ 査読結果通知文書の確認 ④ 査読結果の疑義の申し入れ ⑤ 査読読を要する修正論文の提出期限 ⑥ 今後のスケジュール |

| | | | |
|--------------|----------|--------------|--|
| | | | ⑦ 他大学への査読依頼 ⑧ 来年度紀要に対する改善策及び編集委員会への申し送り事項 ⑨ その他 |
| 第1回 編集委員会 | 11月5日(土) | 短期大学部 会議室 | ① 紀要第45号の発刊計画について ② 査読結果等の報告について ③ 編集方針(テンプレートの体裁・掲載順)について ④ 今後のスケジュールについて ⑤ その他 |
| 第2回 編集委員会 | 2月15日(水) | 短期大学部 会議室 | ① 紀要第45号の論文内容についての最終校正について ② 次年度申し送り事項について ③ 紀要第45号印刷について ④ 紀要発送先について ⑤ その他 |

(2) 現代文明論連絡調整会

A 位置づけ・役割

法人の「現代文明論研究センター」の基本方針に基づき、学園全体で実施する現代文明論を調整する機関として「現代文明論教育機関連絡調整会議」を置く。法人の教育方針に沿った学園全体の統一性、整合性を維持するための講義計画案や方法論を協議する。

B 活動概要

法人の教育方針に沿った学園全体の統一性、整合性を維持するための講義計画案や方法論を協議した。

- 1) 2011年度の現代文明論の実施状況
- 2) 2012年度の現代文明論の実施方針
- 3) 高校現代文明論について

C 委員会開催状況

| 回 | 開催日 | 開催場所 | 議 題 |
|---|-----------|-----------------|--|
| 1 | 6月11日(土) | 代々木校舎 学務会議室2 | ① 2011年度「現代文明論」実施状況について ② 「現代文明論2」について ③ 短期大学(部)の「現代文明論」について ④ 現代文明論センターの活動報告 |
| 2 | 11月12日(土) | 代々木校舎 第一会議室 | ① 2011年度「現代文明論」実施状況について ② 2012年度の「現代文明論」授業編成と実施方法について ③ 「現代文明論2」について ④ 現代文明論センターの活動報告 |